

(案) 公益社団法人大分市薬剤師会5ヶ年行動計画with SDGs

～市民のために会員のために～



2024年6月

(公社)大分市薬剤師会

【策定の目的】

1. 高齢化に伴う本格的な人口減を迎えつつある中、地域で薬剤師が活躍することは、地域医療の向上、地域医療体制確保、市民の健康増進という観点からも重要です。
2. 「患者のための薬局ビジョン」で打ち出された①『「門前から」から「かかりつけ」、そして「地域へ」』、②「対物業務から対人業務へ」などを基本的な考え方として、薬剤師が地域で活動する医療職種として見える化（**薬剤師職能の見せる化**）を図っていく必要があります。

※通常は「見える化」という言葉を使いますが、九州大学薬学部の島添隆雄先生が寄稿された「**節薬バッグから薬剤師職能を見せる化する**」を借用して、ここからはあえて「**見せる化**」という表現を使用していきます。

昨年11月に市薬役員に実施したアンケートでも、役員16人中10人から、「薬剤師の職能や活動内容をもっとアピールしたい」、「薬局、薬剤師を身近な存在にしたい」という要望が寄せられています



【薬局薬剤師等をめぐる状況と課題】

1. ICT等の技術の発展等により、薬剤師を取り巻く環境にも変化が起きています。薬局薬剤師DXの推進のため、データ連携基盤等の整備が必要です。

また、対人業務を充実させるためには、医療安全が確保されることを前提として、対物業務を効率化し、薬剤師が対人業務に注力できる環境を整備することも重要です。

2. 地域医療を担う一員として、薬剤師への期待が大きくなっています。そのためには①地域の関係者と連携した対人業務 ②セルフケア・セルフメディケーションの支援等の健康サポート業務③地域全体で必要な薬剤師サービスの提供などが必要になってきます。



3. 令和4年8月に、厚生労働省は、「薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループとりまとめ」を公表しましたが、その中で多くは地域の薬剤師会の活動が関連しているとしつつも、地域ごとに差があり、統一的な方向性は示されていないのが実情です。

つまり、地域の薬局のことは地域の実情に合わせて、地域で考えていく必要があるのです。

【テーマ】

薬局薬剤師の見える化～大分市薬5つの視点～

薬局薬剤師を取り巻く環境は、変革期に入っています。その中で、薬剤師会として何をすべきかと考えた時に、地域内連携を促進するなどの5つの視点から、薬局、薬剤師の職能の見える化を図ることが、市民、会員へのサービスや地域医療の質の向上につながるものと考えました。



 **薬局間連携の促進**

 **地域内連携の促進**

 **市民への情報発信**

 **有事への対応**

 **会営薬局の機能強化**



変革期に会員薬局を支援し、地域医療の質の向上を図る

【計画期間】 2023～2027年度の5年間

【評価、改善】

計画は、**計画**（Plan）を、**実行**に移し（Do）、結果・成果を**評価**し（Check）、**改善・改良**を加え（Action）、次の**計画**（Plan）へと繋げるPDCAサイクルで進めていきます。

なお、計画策定後、計画の実効性を高めるために、KPI（Key Performance Indicator）指標により達成度を定量的に把握していきます。

また、会員の皆様に評価をしていただくとともに、必要に応じて、外部有識者視点からの改善も加えていきたいと考えています。



【具体的な取組】



薬局間連携の促進



対象: 会員薬局

(1) 薬局間で情報が共有できるシステムの導入

- ① 在庫する医薬品を特定のメンバー間で共有し、相互検索を可能にすることにより、問い合わせ等の業務の省力化を図ります。
- ② 利用回数が限定的であり、管理が難しい麻薬について、薬局間での譲渡を円滑にします。
- ③ 友愛セールスの取組強化
不動在庫を抱える薬局の課題解消のため、薬局間で譲渡する友愛セールスの取組を強化します。
具体的には実証実験を経て、運用を図っていきます。

(2) 各種調査の実施

継続的に実施している「プレアポイント」調査や「トレーシングレポート」に係る調査について、目的と終着点を明確にするとともに、過去に実施された同様の調査の検証及び活用を図り、薬局間で情報共有を図る。



地域内連携の促進

対象: 市民、会員薬局

(1) 地域連携薬局への支援

会員薬局において地域連携薬局の認定を取得することを促進するために、個別に講師を派遣します。

(2) おおいた医療ネットワークの推進

健康事業に携わる多くの医療等関係者が、ICTを活用して、薬や検査結果などの診療情報共有や、コミュニケーションの円滑化を図ることで、市民の健康を支えていくための仕組みである「おおいた医療ネットワーク」への参加を促すための支援を行います。



(3) 在宅業務の拡充

医師会等と協議を行うとともに、各薬局が対応可能な在宅業務(医療材料・衛生材料供給体制整備を重点として)について、他の医療提供施設等との連携体制を構築する。併せて、ポータブルクリーンベンチの活用を図る。

(4) 休日夜間当番薬局の整理の検討

面分業の推進、限りある医療資源の確保のため、休日夜間当番薬局について、医師会等と協議を行い、患者が迷わない体制づくりを検討していきます。



市民への情報発信

対象: 市民

(1) 市薬HPのリニューアル

会員向け中心になっていた市薬HPを一般市民にも親しみやすいようトップ画面等をリニューアルします。

(2) 節薬バグのリニューアル

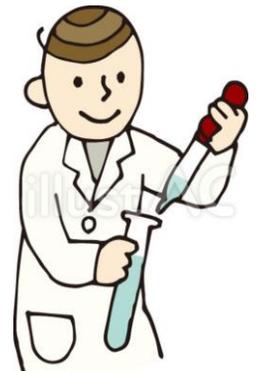
市民向けにバグのデザインを公募したり、節薬の経済的効果を公表するなど、薬局や薬剤師のPRを兼ねたバグを製作します。

(3) 市民向けパンフレットの製作、セミナーの開催

患者目線、介護者等の目線で「訪問薬剤師」や「健康サポート薬局」等のテーマでパンフレットを製作し、それらを活用して、お薬教室や市民向けセミナーを開催します。

(4) 学校薬剤師活動への支援

学校薬剤師用器材を整備するとともに個々の学校薬剤師が、平準化した指導を行うために計画的に啓発用資材のコンテンツの充実を図っていきます。体裁としては、市薬HPからダウンロード出来る形を検討していきます。





新興感染症、災害等の有事への対応

対象:市民、会員薬局

- (1) 新型コロナウイルス感染症のオンコール対応等新興感染症への対応を事務局がまとめ役になり、自治体や医師会等関係団体と連携し、効率的・効果的に実施します。
- (2) 地震、水害など災害の種類ごとに、実際に災害が起こった際、薬剤師会としてまた地域の薬局として実際にどのように動くのかシミュレートします。その際、班単位をベースに大分大学減災・復興デザイン教育研究センター、行政、県薬等とも連携し、防災事業を深掘りしていきます。
- (3) 針刺し事故の未然防止のため、一般廃棄物である家庭用注射針の回収を大分市と協働で継続的に実施します。また、在宅医療の利用者の増加に伴い、ペン型自己注入器等新たな医療系の廃棄物も増加していることから、これらの廃棄物の回収について検討を行います。



薬剤師会の機能強化

対象:会員薬局

(1) 会営薬局の機能強化

① 会員受取り用ロッカーの設置

駅南薬局が閉局している平日夜間や日曜日等においても、小分け注文を行った医薬品の受け取りを可能にします。

② 計画的な備品整備

精度管理の面からも、また、急遽、ダウンして業務に支障が発生しないよう、耐用年数も考慮し、計画的に備品の整備を行っていきます。

属人的業務のDX等を推進することにより、業務効率化を図ります。

(2) MEET大分市薬の開催

会員相互の連携や将来的に薬剤師会を支えていく人材を育成するため令和4年度からスタートしたハイブリッド形式のイベント「MEET大分市薬」を継続的に開催し、会員相互の連携を深めていきます。

(3) 今後の薬剤師会を支える人材の発掘と育成

各種委員会の委員の公募や委員総会の開催等により、今後の薬剤師会を担う人材の育成を図る。



【スケジュール】

計画の進捗をロードマップに示すとともに、KPI指標により定量的に達成度を把握していきます。

また、計画は必要に応じ、見直します。

【推進体制】

薬局を取り巻く環境の変化に対応するためには、その対応をフレキシブルに検討し、対策を考える必要があります。そのため、新規性の高い案件の企画づくり等の作業を行う『市薬行動計画推進委員会』を新たに設置し、各委員会と協働で計画を着実に進めていきます。

【SDGsとのかかわり】

「SDGs」という言葉を耳にする機会も増えたと思います。

「SDGs」とは、「持続可能な開発(Sustainable Development Goals)のための2030アジェンダ」のことで、「薬局とSDGs?」、「薬剤師とSDGs?」と考えられる方もいるかと思いますが、実は、今回の計画の中の具体的な取組は、「SDGs」の目標に沿ったものとなっているのです。次に、具体例をあげてみます。

目標3「すべての人に健康と福祉を」



薬局、薬剤師の業務そのものです。また、今回の取組では、「市民向けパンフレットの製作、セミナー開催」や学校薬剤師活動などほとんどの取組がこの目標達成に貢献するものといえます。

目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」



クラウドシステムの導入やおおいた医療ネットワークへの参加は、この目標につながるものです。



目標11「住み続けられるまちづくりを」



災害対策等の有事への対応は、この目標につながります。

目標12「つくる責任つかう責任」



節薬バッグの製作や、家庭用注射針の回収の取組は、この目標につながります。

目標13「気候変動に具体的な対策を」



市薬で使用している家庭用注射針の回収Boxは再生プラスチックを使用しており、ごみとして燃やさないことで、温室効果ガスの排出を減らしています。

目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」



SDGsの目標の中でも、特に重要な目標ですが、具体的な取組を考えるにあたり「薬局間連携の促進」や「地域内連携の促進」は大切な視点となっています。

【持続可能な薬局を目指して】

「SDGs」の目標を「生物圏(Biosphere)」「社会圏(Society)」「経済圏(Economy)」の3つの層に分類したものが、「SDGsウェディングケーキモデル」です。

このモデルでは、すべての目標は密接につながっており、個別に達成するものではないことも伝えています。頂点である目標17を達成するためにも、それぞれの取組の意義を薬局の皆様や市民に理解していただき、持続可能な薬局を目指して一歩ずつ活動していく必要があります。

